

No.5

葛飾区の中小ものづくり企業の皆様へ

葛飾トゥモロウ

産×学×公で明日を拓く

葛飾区内の町工場に若者の視点
理科大発の学生ベンチャーが注目

合同会社 KeyExpress



葛飾区内企業の(株)クローネを訪ね、担当者の説明を聞くKeyExpress代表の川井さん(写真中央)

フロンティア
かつしか

「葛飾区内のものづくり企業と学生をSNSでつなぐことができないか」と語る川井康生さん(=2面に川井さんインタビュー掲載)。川井さんは、2024年4月に東京理科大学から同大学学生スタートアップ

の認定を受け、合同会社KeyExpress(キーエクスプレス)を友人と2人で在学中に設立し、今年4月に同大学を卒業したばかり。大学との連携で会社の信用を高めるとことで民間へも取引先を広げ、経営を軌道に乗せています。

同社の事業の柱は、SNSマーケティングと呼ばれる分野で、InstagramやTikTokなどのSNS運用代行をはじめ、SNSの内製化の支援、ウェブマーケティングといった業務やサービスを提供しています。

そんな川井さんが、葛飾区内の製造業に注目している背景には、同社が実施した大学生対象の調査があります。「製造業に興味を持っている学生が一定数いることがわかりました。しかし、そうした層にもものづくりの魅力や現場の情報がほとんど

伝わっていません」と課題を指摘します。

そこで、SNSで両者をつなぐことができれば、町工場への理解が若い世代へ広

がり、デジタル化やAIの導入、人手不足や後継者難、技術伝承など中小製造業が直面する様々な課題に対して、解決につながる新たな動きが生まれることが期待されます。

「SNSをこれから活用してみたい」という企業はもちろん、「SNSが上手く使えないので手伝ってほしい」、「SNSを自社で内製化したい」といった要望がある場合は、同社に相談してみるのも1つ。SNSの運用に必要な知識やスキルを身に付けるためのスクール事業にも取り組んでいます。

「若者の興味をひくコンテンツで情報を発信して、閲覧した人の1%が行動を起こせば、状況が変わる」と川井さん。これからの活躍が楽しみです。



KeyExpressのロゴマーク。同社は、東京理科大学が認定しているスタートアップ21社(令和8年8月現在)の1社となっている

葛飾区にもキャンパスを置く東京理科大学では、大学発スタートアップとしてこれまでに21社を認定(令和8年8月現在)。そのうち学生による起業は6社で、合同会社KeyExpress(キーエクスプレス)もそのうちの1社。代表の川井康生さんに、会社設立に至った経緯や、今後の抱負について聞きました。

SNSの活用で現場の人たちを支えたい！

大学在学中に、どのような思いから会社を設立したのですか。

「私は、子どもの頃から身の回りに個人で事業をする人たちが多くいる環境で育ちました。ですので、スタートアップやベンチャーにこだわりがあったというより、自分で事業をしたいという気持ちがありました。

東京理科大学では、経営学部ビジネスエコノミクス学科でプログラミングや財務諸表の分析、データサイエンスなどを学び、友人グループで話をしている中で、SNSマーケティング事業を柱に、会社の設立を決めました」

● 大学との連携が信用に

政府は成長戦略でスタートアップを増やしていく方針です。理科大としても研究活動に加え、事業化にも力を入れていますね。大学との関係は。

「大学からは、オフィスを貸与してもらい、大変助かっています。

KeyExpressは誕生して間もない会社ですが、民間から仕事を受注する際には、理科大発スタートアップとして大学との関係で信頼が得られる効果は大きいです。

一方、私たちが実社会で得たデータは、個人情報などを除くかたちで学術の分野に還元して、広く社会に役立つ研究に貢献していけたらと考えています。

大学のキャンパスが葛飾にもあることから、葛飾区内の町工場と交流する機会も生まれているので、地域での連携にも力を入れていきたいです」

● 町工場は日本の「宝」

葛飾区には、町工場が集積していますね。若い世代の視点から、どうぞ覧になりますか。

「日本の経済成長をすそ野で支えてきたのは、中小の製造業ですね。ですから、町工場で働く人たちがものづくりの技術は、日本の宝だと思います。

ところが、今は少子高齢化で、人手不足や後継者難になっていて、これは葛飾区だけの問題ではありませんね。世代交代が必要で、若い人たちの力を使うことが絶対条件となっています。

そこで、学生が製造業にどのようなイメージを持っているか調べたのですが、興味を持っている学生が一定数いることがわかりました。そうした世代に製造業の面白さを適切に伝えていくことが、日本の中小製造業にとって今後の一番の課題だと考えています」

では、SNSで若い人たちに情報を発信するには、どのように工夫すれば良いのでしょうか。

「SNSで閲覧数が爆発的に増えることをバズると言いますね。ところが、SNSに動画などを投稿してバズっても、そうした情報拡散には再現性がありません。それに対して、企業がSNSで情報を発信する場合には、継続的に効果を得られることが重要です。

そこで、発信した情報に対する効果をデータで確認できる仕組みにする。データドリブンというのですが、データに基づいて、Aで効果がなければBに切り替えるといった運用を継続していくことが必要です」

● 現場の人たちを支援

そこが、KeyExpressの仕事になりますね。今後の抱負はいかがですか。

「今、店舗や中小製造業では人手不足から現場の職人や技術者が労務管理や財務管理などに追われて、本来の仕事に専念できなくなっています。そうした負担を、例えば

AIの導入で軽減して、本来の仕事に集中できるようにする。

私たちは、SNSマーケティングとデータ分析、AIの掛け算で会社を定義づけています。大学で学んだ知見やデータサイエンスの手法を現場に寄り添うかたちで社会に実装して、現場の人たちがそれぞれ専門分野に集中して力を発揮できる環境を広げていきたいと思っています。長い目で見て、取り組んでいきたいと考えています」

インタビュー

明日を語る



川井 康生さん
合同会社KeyExpress 代表



企業や団体などの人たちが聴講するオープンカレッジで講演する川井さん

コーディネーターに聞く

Q&A

産学連携で企業にはどのようなメリットが生まれるのでしょうか？ 留意することは？

前号では、芝浦工業大学で進めている産学連携活動の特徴などについて、教えていただきました。今回は、連携による支援や企業にとってのメリット、留意点についてさらに聞きました。

Q 芝浦工業大学の研究者と連携する場合、どのような形態があるのでしょうか。

A 技術相談、委託・共同研究、技術移転、起業支援の4つのサービスがあります。私たちコーディネーター／リサーチアドミニストレータ（URA）がご相談内容を伺い、秘密保持契約を結んでから連携のご提案をします。

技術相談や受託・共同研究では、研究者をご紹介してさらに具体的な打ち合わせを行って研究の方向性を詰め、最適な契約形態を提案します。技術移転では、本学が保有する特許などの知的財産を事業に活用するための方策を提案します。「こんな特許があれば活用したい」といった相談にも応えます。起業支援では、ビジネスプランなどをもとに、技

企業と大学では、目指すゴールが違います。そこで、私たちコーディネーター／URAが擦り合わせをして、マッチングを図ります！



田中 芳親さん

芝浦工業大学
複合領域産学官民連携推進本部
産学官連携コーディネーター／
リサーチアドミニストレータ（URA）

術移転や事業性、法務的な側面、経営に関することなどについて、情報提供いたします。

Q 連携した場合、企業にとって期待されるメリットについて、教えてください。

A 企業の皆さんが抱えている技術課題に対し、専門の研究者の広い知識に触れ、新たな視点のアドバイスから問題解決につながることが期待できます。技術者の育成にも効果的です。また、本学の実験設備を活用して、事業展開に必要な根拠が明確で信頼性のあるデータを取得することもできます。大学や研究者の名前を利用して成果を公表することができたり、産学連携を条件にしている公的助成金を活用することもメリットです。

Q 大学と連携するにあたって、留意する点はありますか。

A 企業は研究成果を事業に活かし収益を上げることが目標ですが、大学では成果を公表し研究・教育を充実させることを目標にしています。また、研究は必ずしも期待した結果が得られるわけではありません。ですので、「○○のような成果を○○までに仕上げてください」と依頼されても、研究者としては対応が難しいのです。また、「研究成果の公表は製品の発売まで待って欲しい」といった要請も、連携が難しくなります。

このような企業から寄せられる期待と大学の教育・研究活動とのズレを擦り合わせて調整していくことがコーディネーター／URAの役割になります。それぞれ内容に応じて、一つひとつのお問い合わせにお応えしてまいりますので、まずは私たちにご連絡ください。

Point



お問い合わせの際は、
以下の内容をお伝えください。
スムーズに手続きを開始できます！

●申込者情報

会社名・部署（役職）・住所・電話番号・E-mail アドレス

●相談事項

【相談の目的】

1. 製品の改良 2. 製品、製造などにおける技術上のトラブルの解決 3. 新技術、新製品の開発 4. 機械、装置の改良 5. 新しい技術を身につける 6. 新技術に関する情報・資料の入手 7. その他

【希望する形態】

1. 技術相談 2. 委託研究 3. 共同研究 4. 技術移転 5. 技術支援 6. その他

【相談分野】

1. 農林水産業 2. 食品 3. バイオ 4. 物質・エネルギー 5. 機械・制御・輸送 6. 材料・機能性物質 7. 土木・建築 8. 生活・環境 9. 医学関連 10. エレクトロニクス 11. 情報関連 12. 分離・分析・計測技術 13. デザイン 14. その他

【相談内容】

相談の内容や課題について、できるだけ具体的にご連絡ください。相談内容を記載したものがあれば、コピーをお送りいただければ結構です。面談を希望する教員がいる場合には論文など参照元をお知らせください。

問い合わせ先 Email sangaku@ow.shibaura-it.ac.jp

研究室 拝見

東京理科大学 工学部 機械工学科
橋本研究室

人間を理解し、人間を支援する 機械システムの実現を目指す

少子高齢化が進む日本では、介護・医療分野の人材不足や高齢者のQOL (Quality of Life) 維持が重要な社会課題となっています。さらに、熟練者の減少や技術継承の問題など、人間の能力を補完・支援する技術への期待が様々な分野で高まっています。



そこで、橋本研究室では、「医療・福祉」「スポーツ」、「HRI (Human-Robot Interaction)」をテーマに、人間の日常生活を支えるための機械システムやバイオメカニクスについて、研究を行っています。

「単に機械やAIを高度化するだけではなく、人間の身体機能や行動特性を深く理解し、人間に寄り添ったシステムを構築することが重要と考えます」と橋本卓弥准教授。

例えば、「医療・福祉」の分野では、嚥下（飲み込み）運動を対象に、運動機能を評価するためのセンサーデバイスの開発や、新しい運動解析手法の研究などを行っているほか、上肢機能の回復を支援する小型リハビリロボット、高齢者や患者の状態を負担なく把握することを目的として、カメラやマイクロ波センサーを用いた非接触生体センシング技術や、AIを



東京理科大学葛飾キャンパスの第1研究棟にある橋本研究室



上肢機能の回復を支援する
小型リハビリロボット（左）と
嚥下時に発生する生体信号
の計測装置

活用した見守りシステムの研究開発も進めています。

「スポーツ」では、ビデオ・モーションキャプチャを用いた運動パフォーマンス評価や、ロボティクス技術を応用して区内製造業4社が参加する「かつしかものづくりイノベーションフォーラム」と知的な筋力トレーニング装置の共同開発に今年度も取り組んでいます（葛飾／連携「掲示板」記事参照）。

また、「HRI」では、ヒトとの感性的なコミュニケーションの実現を目指したアンドロイド・ロボットの開発やその実世界応用に関する研究を進めています。

様々な研究開発テーマの中から、人間計測や状態推定、自動化支援などに関心を持つ企業と新たな製品・サービスの創出へ向け、産学連携の取組がさらに発展していくことも期待されます。

葛飾／連携 掲示板

第42回葛飾区産業フェア（工業・商業・観光展）
10月16日（金）～18日（日）

知的な筋力トレーニング装置の体験会開催へ！

令和8年10月16日（金）～18日（日）の3日間、テクノプラザかつしかおよび東京都東地域中小企業振興センター（葛飾区青戸7）で開催される第42回葛飾区産業フェア（工業・商業・観光展）で、昨年に続き今年もかつしか異業種交流会が「知的な筋力トレーニング装置」を展示し、体験会の開催を予定しています。

この筋トレマシンは、同交流会の参加企業の4社（カインズ（株）、（株）ラヤマパック、SOLINEX（株）、（株）ミヨシ）により構成される「かつしかものづくりイノベーションフォーラム」が東京理科大学機械工学科の橋本研究室と共同研究契約を結び、開発を進めている次世代型の筋トレマシンです。

従来の筋トレマシンのような錘は使わず、モーターの力

で負荷を発生させ、アスリートから高齢者まで、一人ひとりの筋力に応じたトレーニングを知的に提供できる装置として、産学公連携により開発を進めてきました。

皆さんもぜひ、新しいトレーニングマシンの新機能を会場で体験してみてください！



子どもたちに大人気となった昨年度の体験会の様子

発行：葛飾区産業観光部 商工振興課 工業振興係
〒125-0062 葛飾区青戸 7-2-1 テクノプラザかつしか2階
電話 03-3838-5587
制作：株式会社サンビジネス